

(案)

令和 2 年度府中市協働事業評価結果及び  
令和 4 年度提案型協働事業選考結果並びに  
府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しについて

(答申)

令和 3 年 9 月

府中市市民協働推進会議

## はじめに

府中市市民協働推進会議（以下「当会議」と言います。）は、令和3年5月28日付けで、高野市長から、「市民協働の推進に関する基本方針の見直しを行うこと」、「市民協働の推進に係る取組の進捗状況等について評価・検証を行うこと」、「協働事業提案制度に基づく協働事業の選定を行うこと」及び「その他市民協働の推進に関し、市長が必要と認めること」の4点について検討を行い、令和3年9月30日までに答申するよう、諮問を受けました。

今年度は、「市民協働の推進に関する基本方針の見直し」について、重点的に議論するとともに、令和2年度の協働事業の評価として、提案型協働事業2事業を対象に実施し、令和4年度の提案型協働事業について選考を行いました。

平成26年5月に本基本方針が策定されて以降、この8年間で、府中市の協働を取り巻く環境は大幅に変化しています。平成29年には市民活動センター「プラッツ」が開設され、市民活動や協働の拠点施設としての機能を果たしてきました。

また、地域社会におけるSDGsの取組や企業のCSR活動の高まりといった協働への追い風がある一方で、豪雨を始めとする自然災害や、新型コロナウイルス感染症の拡大といった、不測の事態も発生しています。

これらの複雑・多様化する地域課題に対応すべく、当会議では、これまで培ってきた協働の成果を踏まえ、多様な主体として協働に携わる人々の礎となり、今後の府中市における協働の更なる発展につながるよう、活発に意見を交わし検討を重ねてきました。

ここに当会議における検討結果について、答申として提出させていただきます。

この答申が協働事業の質を更に向上させ、「協働によるまちづくり」に資することはもとより、「市民協働都市」の実現につながることを期待します。

府中市市民協働推進会議  
会 長 藤 江 昌 嗣  
副会長 青 山 亨  
委 員 大 島 雅 章  
同 岡 本 彰 子  
同 小 林 広 和  
同 隆 宗 男  
同 田 中 研 二  
同 藤 間 利 明  
同 丸 山 美 佳  
同 森 村 彩 代  
同 山 岡 法 次

# 目 次

I	令和2年度府中市協働事業評価について.....	1
1	今年度の評価に当たって（評価の視点）.....	1
2	個別評価を通して共通して感じられたこと（総論）.....	1
3	個別事業について（各論）.....	3
II	令和4年度提案型協働事業の選考結果について.....	5
1	協働事業提案制度について.....	5
2	協働事業提案制度のながれ.....	5
3	令和4年度提案型協働事業の傾向について.....	5
4	令和4年度提案型協働事業 選定結果.....	6
III	府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しについて.....	8

# I 令和2年度府中市協働事業評価結果について

## 1 今年度の評価に当たって（評価の視点）

今年度は、提案型協働事業2事業について評価を行いました。

評価に当たっては、事業の評価ではなく、協働の視点を意識して円滑に遂行できたか、特に、目的やゴールイメージの共有ができていないか、協働による相乗効果が発揮されているかといった点を意識しました。

お互いが尊重し合い、役割や強みを理解するとともに、目的を共有し同じ方向を向いて事業を進めることで、協働事業としての相乗効果が生まれ、大きな事業成果につながることから、役割分担を事前に明確にし、特に市の他部署との連携を図るなど、双方の強みを活かした協働事業となるよう積極的に取り組むことで、協働事業の更なる発展につながるよう、推進会議として提案します。

## 2 個別評価を通して共通して感じられたこと（総論）

相互評価シート及び市民・市の事業担当課とのヒアリングを経て、全体に共通して見えてきた点は次のとおりです。

### (1) 事業について

協働事業の実施に当たっては、「協働の意識」とともに、「目的共有の原則」や「相互理解の原則」が協働の原則の中でも特に重要であり、そのことを実感する評価結果となりました。事業内容だけではなく、その先にある目的を常に意識する必要があり、密にコミュニケーションを取り、目的共有と相互理解をしっかりと行ったうえで、双方の強みを活かして取り組んでいくことが重要です。

提案型協働事業には、市民の自由な発想に基づき提案いただく「市民提案型協働事業」と、市が定めたテーマに基づき事業を提案いただく「行政提案型協働事業」の2種類があり、令和2年度に実施した市民提案型1事業、行政提案型1事業の評価を行いました。

今回の評価では、2事業ともにA評価としました。

両事業において評価できるのは、目的の共有や相互理解ができており、新型コロナウイルスにより事業が当初の予定通りにはいかない中でも、お互いに協力して、できる限りのことに柔軟に取り組んでいました。

一方、事業実施にあたり、役割分担については事前の調整が不足していたため、負担に偏りがあったことから、役割分担を明確にする必要があると感じました。

また、今後の展望について、市の他部署との連携など、様々な主体間との連携を図るとともに、双方が連携して成果物の活用方法や事業の発展性を検討することで、更なる発展が期待できると感じました。

(2) 次年度に向けて

事業実施者である団体や市が、評価結果を受けて新たな気づきや協働の意識の再確認につながり、より前進して取り組めるよう、引き続き「協働事業等評価制度」の改善を検討してまいります。

特に、第三者評価シートの項目「3 協働の視点について」に関しては、補助や委託など、協働の形態が明確であると分かりやすいと感じたことから、改善にあたっての検討事項として提案します。

推進会議としては、評価を受けた事業実施者が、より一層協働の視点や協働の成果を意識できるものとなり、更なる事業の発展の一助となることを期待します。

### 3 個別事業について（各論）

推進会議におけるヒアリングを踏まえた、個別事業の評価結果は次のとおりです。

#### (1) 市民提案型協働事業

第3号様式	
<b>府中市協働事業 第三者評価シート</b>	
事業名称	中学生と大学生が学び合うアクティブラーニングプログラム【FASS】 Fuchu Active Learning Program Sharing for Students
事業実施者	NPO法人地域教育ネット・NPO法人府中市市民活動支援センター・教育部指導室
事業目的	中学生の自己肯定感や学習意欲の育成と居場所の提供
事業内容	・家庭での学習環境が整っていない子どもに対し場所を提供する ・家庭でのネット環境が整っていない子どもに対しタブレット等の使用の機会を提供する。
事業目標	中学生の自己肯定感の育成・サードプレイスの確保、大学生の教育実践現場の確保、市内地域資源の活用、人材育成、波及的な地域活性化など
1 評価結論	A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。  コロナ禍において、当初の事業計画とは変更になったが、環境の変化に合わせ、市と市民が協力して柔軟に対応しており、非常に評価できる。 また、事業の背景にある課題やコロナ禍で生じた課題に対応するため、関係団体や市の他部署と連携・協力していくことで、更なる発展に期待ができる。
2 事業について	当初の事業計画とは変更になったが、当初からの目的は一貫しており、コロナ禍の学習に関する直近の課題に双方が協力して、柔軟に対応している点が評価できる。
3 協働の視点について	コロナ禍において、情報共有をしっかりと行うことで目的共有や相互理解ができており、環境の変化に応じて関係者と意思疎通を図りながら柔軟に対応できている。 また、役割分担をより一層明確にし、特に市の他部署と連携するなど、行政の強みをより一層活かすことで、更なる相乗効果が期待できる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	本事業の背景には「子どもの貧困」のほか、コロナ禍において浮きぼりになった「情報リテラシー格差」という新たな課題があるため、本当に支援を必要とする家庭・子どもへ支援が行き届くよう、行政、関係団体等と連携を深め、市内拠点の増加等による市内広域での学習支援への発展を期待する。
【評価結論】	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。  A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。  B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。  C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。  D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

(2) 行政提案型協働事業

第3号様式	
府中市協働事業 第三者評価シート	
事業名称	行政提案型協働事業「みんなで作ろうバリアフリーマップ」
事業実施者	act634府中／地域福祉推進課
事業目的	高齢者や障害のある人を含む市民の意見、要望を取り入れることにより、必要な方々が使いやすく、役に立つバリアフリーマップを作成することで、連携・協働を進める福祉のまちづくりを推進する。
事業内容	バリアフリーマップの作成
事業目標	心のバリアフリーの啓発、バリアフリーマップの作成
1 評価結論	<p>A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。</p> <p>多様な視点で作るバリアフリーマップという目的が果たせており、丁寧な事業プロセスを経て、包括的なすばらしいマップが作成されている。 市と市民の取り組み方、役割分担に改善の余地はあるが、完成したマップの今後の活用や事業展開について話し合うことで、更なる発展が期待できる。 また、マップ作成を終着点にせず、バリアフリーの考え方を普及することで、心のバリアフリー向上に期待する。</p>
2 事業について	市民、IT・地図の専門家など、多様な主体が関わり、利用者目線で作られた、完成度の高い作品である。この事業の成果が障害が身近ではない人たちにも伝わることを期待する。
3 協働の視点について	当事者、市民目線を加えて、多様な主体を巻き込みながら丁寧に事業を進めている点が、協働事業として評価できる。一方、市と市民の負担感の偏りが見受けられたため、役割分担をより一層明確にすることで、お互いの強みを活かした更なる相乗効果が期待できる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	「心のバリアフリー」のために今後どうしていくかが重要であるため、成果物の更なる活用方法を検討するとともに、市の他部署や、鉄道事業者、商店街など多様な主体と連携し、配架だけではなく、該当エリアの掲示に生かすなどの工夫をすることで心のバリアフリー向上をはじめとした更なる発展が期待できる。
【評価結論】	<p>S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。</p> <p>A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。</p> <p>B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。</p> <p>C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。</p> <p>D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。</p>

## II 令和4年度提案型協働事業の選考結果について

### 1 協働事業提案制度について

協働事業提案制度は、市民のアイデアやノウハウを活かした事業の提案を募集し、市民と市が協働で事業を実施することで、地域課題の解決を目指すための制度です。

この協働事業提案制度は、市民提案型協働事業と行政提案型協働事業があり、市民提案型協働事業は、市民の自由な発想に基づき、協働事業を市に対して提案できるもので、行政提案型協働事業は、市が地域課題として掲げるテーマに基づき、協働事業を市に対して提案できるものです。

### 2 協働事業提案制度のながれ

令和4年度の提案型協働事業については、令和3年5月11日から6月10日までを事前相談期間、6月17日を提案書提出期間とし、最終的に、市民提案型協働事業2事業、行政提案型協働事業2事業のご提案をいただきました。

令和3年8月5日に公開プレゼンテーションを実施し、提案団体及び市担当課によるプレゼンテーションと質疑応答を行い、その後、推進会議の委員で構成する「提案型協働事業選考部会（以下「部会」といいます。）」と府中市職員で構成する「市民協働推進委員会」との意見交換を経て、部会において審査会を実施しました。

審査においては、提案内容、事業の妥当性、事業成果、協働の必要性、実現可能性を踏まえ、令和4年度は4事業を採択しました。

そして、部会案を推進会議において審議し、令和4年度提案型協働事業の選考結果としました。

### 3 令和4年度提案型協働事業の傾向について

採択となった事業については、地域課題や市民ニーズの分析がされており、市内に広く効果が期待できるとともに、協働の必要性が高い事業で、達成しようとする目標や成果が明確でした。

協働で事業を行うに当たっては、相互理解を深め、それぞれの強みを活かし合い、協働による相乗効果や波及効果を得るとともに、事業の継続性や発展性を意識しながら事業を進めることを期待します。

### 4 今後の協働事業提案制度について

協働事業提案制度については、平成30年度に2年間の事業提案ができるよう見直しが行われましたが、補助対象経費や制度活用後のフォローアップ等、更に見直しをする余地があります。今まで以上に制度が活用され、地域課題の解決につながるよう、更なる改善を期待します。

4 令和4年度提案型協働事業 選定結果

推進会議が行った、令和4年度提案型協働事業選定結果については、次のとおりです。

■市民提案型協働事業

	事業名	団体名	市担当課	事業概要	選定結果	採択に当たっての付帯条件または不採択の理由等
1	ヤギがつなげるまちづくり	新町小のたっと	協働推進課	学校における動物の飼育管理を、地域や行政のリソースを活用し、地域コミュニティと連携し、継続して行うための基盤づくりを行う。ヤギ等の飼育体験やふれあい体験等を通じて、いろいろな人と交流する場や高齢者が参加しやすいコミュニティをつくる。	採択	<p><b>【採択理由】</b> 「人と人とのふれあい」「人と動物とのふれあい」や、「ヤギのえさを市内から調達（SDGs）」、「コミュニティづくり」と多方面に効果が期待できる。</p> <p><b>【主な意見】</b> 新町小学校にとどまらず、市内全小学校へと取組の輪が広がっていくことを期待している。 このような時期でもあるため、人とのコミュニケーションを創出する場がなかなか作れない課題がある中で、老若男女が関われる事業があることはよいことである。また、生き物を扱う事業であるため、必ず継続していただきたい。</p>
2	府中駅前スカイナードにおける市民参加の美化活動	act634 府中	道路課	スカイナードの良好な景観形成について、啓発を図ることを目的に、府中駅周辺の道路の清掃を市民参加で実施。 また、スカイナードに設置されている老朽化したプランターの植物の植え替え及び維持管理を市民が主体的に実施。	採択	<p><b>【採択理由】</b> 「府中の表玄関を美化する」、「汚さない」という市民意識の醸成に期待できる。</p> <p><b>【主な意見】</b> 「スカイナードクリーン大作戦」（一斉清掃）などの機会に大規模な広報を行い、参加意欲の喚起や、市民みんなできれいに保とうという意識が芽生えるきっかけになることを期待する。 市側には、今後、「表玄関」として、プランターなどの設備更新をはじめ、オブジェやモニュメントなどを設置して来訪者へ府中市からのメッセージを届けるなど、「道路としての管理」という旧来の固定観念からの脱却を期待する。</p>

■行政提案型協働事業

	事業名	団体名	市担当課	事業概要	選定結果	採択に当たっての付帯条件または不採択の理由等
1	ウィキペディアタウン in 府中	府中まちコム舎 ボーイスカウト府中第一団	図書館	府中市の事物等について調べ、調べた事実をウィキペディアの執筆・編集を通じて広く伝えることに興味のある市民を公募（想定10名程度）し、市内の事物等からウィキペディアに掲載する題材を選択し、まちあるきイベントを企画、図書館の資料や機能を活用しながらウィキペディア編集を行う。 まちあるきイベントとして令和5年3月に1日の日程でフィールドワークを実施、そこで得た知見をウィキペディアに反映させる。（想定20名程度）	条件付 採択	<p><b>【付帯条件】</b> レファレンス機能をしっかりと伝えるイベントとすること。 参加者には、ウィキペディアの特性を理解した上で参加してもらうこと。 図書館リニューアルオープンイベントとして、今後の利用増加につながるよう、SNSなどを最大限活用し、大きく発信すること。 誤った府中の記載がなされないよう、善処すること。</p> <p><b>【主な意見】</b> 一過性のイベントではなく、図書館利用が継続的に増加していくよう取組を期待する。 成果物がそのままの状態を保てない懸念があるが、図書館は市民が利用する大事な場所なので、ぜひ市民に良さが伝わる事業にしていきたい。</p>
2	市内公園を活用したコミュニティガーデンの創出	act634 府中	公園緑地課	宮町中央公園をモデル公園としたコミュニティガーデン講座（ワークショップ）やお手入れ講座を行うことで、それぞれが住む地域の公園でも応用や活用できるスキルを市民が身につけ、将来的に各地で展開できるコーディネート力を持った人材を育成する。 また、市内にあるコミュニティガーデンや花壇づくりを行っている団体や個人等のネットワークづくりを行う。	採択	<p><b>【採択理由】</b> ワークショップの計画及び内容が一部不明確な点はあるが、市の課題解決の担い手づくりにつながる事業として期待できる。</p> <p><b>【主な意見】</b> 府中は公園が多く、市だけで美化を維持するには限界があるため、市内の様々な地域で、公園の美化を維持することができる人材を育成することは必要である。 また、今後市内400か所もの公園にコミュニティガーデンを「横展開」していくには、他市で先駆的に実施されている『アダプトプログラム』などを参考として、市側の継続的できめ細かな支援が望まれる。</p>

### Ⅲ 府中市市民協働の推進に関する基本方針の見直しについて